

ここでは、各ソフトウェアの動作や通信異常時に弊社へお問合せする上で調査に必要なログや設定データの取得方法などをまとめてあります。必要に応じてサポート対応時にデータを確認または準備してください。

ソフトウェアの種類によっては各項目が異なる場合は、ソフトウェアCD添付のオンラインマニュアルにてご確認願います。

UNIX・Linux版の場合

(インストールパス `/usr/ups` の場合)

項目	内容
<code>./upspasswd</code>	ソフトウェア ライセンスファイル シリアル番号
①OSのシステムログファイル <code>/etc/syslog.conf</code> ファイルに設定されているシステムログ ファイル	OS の起動や終了、動作の環境上記録 されるログ
② <code>/usr/ups/bin/upslog -ver</code> の実行結果 <code>/usr/ups/bin/upslog -ver -dev N</code> (監視番号)	監視機器(UPS)の情報 (H-07-N**2の場合) -dev オプションでUPS番号を指定してください。
③ <code>/usr/ups/bin/upslog -lin</code> の実行結果 <code>/usr/ups/bin/upslog -lin -dev N</code> (監視番号)	計測値、ステータスログ (H-07-N**2の場合) -dev オプションでUPS番号を指定してください。
④ <code>/usr/ups/bin/upslog</code> の実行結果 <code>/usr/ups/bin/upslog -dev N</code> (監視番号)	
⑤ <code>/usr/ups/bin/upslog -ev</code> の実行結果	<code>upsd</code> プロセスのみのシステムログ表示
⑥ <code>/usr/ups/lib/upstab</code> ファイル(ソフトウェアの設定 データ)	設定データ
⑦スケジュール設定データ(ファイルが存在しない場合 あり) <code>/usr/ups/lib/daily.dat</code> <code>/usr/ups/lib/monthly.dat</code> <code>/usr/ups/lib/weekly.dat</code> または、 <code>/usr/ups/lib/schedule.dat</code>	スケジュール設定データ
⑧ <code>/usr/ups/bin/upsrc</code> または <code>/usr/ups/bin/upsrclp</code>	実行レベルスクリプトファイル
⑨ <code>/usr/ups/lib/multi-ups.conf</code>	H-07-N**2の場合 UPS監視リストファイル

Windows版の場合

(インストールパス c:\\$powermgr の場合)

項目	内容
 ①動作条件設定 ツール「ライセンス」ページ	ソフトウェア ラインセンス情報 シリアル番号
 ②「スタート」メニューより「コントロールパネル」「管理ツール」「イベントビューア」	「イベントビューア」を起動します。 ログの種類で以下3種類あります。各イベントログを表示後、メニューより（「操作」「ログファイルの名前を付けて保存」を選択）各イベントログをTXTファイル形式で保存してください。（evtファイルで保存した場合、他のコンピューターで閲覧できない場合があります。）
 ③計測ログの取得	ソフトウェアのメニューから「ログ管理」を起動します。メニューより（「ログ(CSV形式)、ログ」）を選択、表示させます。「ファイル」より「名前を付けて保存」で各計測ログをファイルに保存してください。計測値ログの表示は2種類あります。2種類とも保存してください。
④INIファイルデータ	ソフトウェアの種類、バージョンにより下記のファイルがない場合があります。 MULTIUPS.ini(監視設定ファイル) LICENSE.ini(ライセンス情報) UPSTAB.ini(設定データ) MSG.ini(イベントメッセージデータ) SCHED.ini(スケジュール設定データ)

(注意)iniファイルがソフトウェアの各動作に関連しているファイルになります。このファイルを直接変更はしないでください。